

重点施策別評価表

1-1 魅力ある図書館づくり 全年齢層へのサービスの充実を目指す

項目	単位	25年度目標	25年度実績	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
魅力ある図書館づくり								
司書職員数	人	8	8	100	良い	拡大・充実	5	
大活字本購入数	点	100	214	214	良い	継続・維持	5	
録音資料作成数	点	3	4	133	やや悪い	継続・維持	4	
ボランティア事業協力の有無		有	有		良い	継続・維持	5	3
おはなし会回数	回	350	361	103	良い	継続・維持	5	
ボランティア研修会	回	1	2	200	良い	拡大・充実	4	
人形劇	人	120	120	100	非常に良い	継続・維持	5	
おとなのための図書館見学	人	30	32	106.67	良い	継続・維持	5	
夜間開館入館者数	人/日	200	190	95	やや悪い	見直し	4	
閲覧席利用席数	席/日	20	20	100	やや悪い	見直し	4	3
入館者数	人	700,000	703,759	100		拡大・充実	5	
ウィークエンドシネマ	回	28	23	82	良い	継続・維持	4	
20周年記念新春シネマウィーク	回	6	6	100	良い	廃止	5	
入間映画愛好会共催上映	回	11	11	100	良い	廃止	5	

※外部評価の数字は、内部評価と相違するもののみ記入してあります。

★自己評価

○評価の理由

司書職員数は有資格者が増え、レファレンスサービスの充実につながったので5とした。
 大活字本は、目標よりも多く購入でき、全館で均等に所蔵できるように工夫しているので5とした。
 録音図書作成等、障害者、高齢者向けサービスは目標達成できたので5とした。
 ボランティア育成のための研修会は充実度が不足しており、参加者も少なかったため4とした。
 人形劇は事業効率も良く、参加者数も定員一杯で、市民からも好評を博したので5とした。
 おとなのための図書館見学は、初めての事業だったが、近隣市(飯能市)の新設図書館であったため、市民の注目度も高く、参加者からも好評価だったので5とした。
 開館時間延長は概ねそれぞれの最低限の目標を達成できたと考えられるが、新規利用者の開拓には繋がっていないので4とした。
 ウィークエンドシネマは、工事等と重なり、中止したこともあったが、概ね目標を達成できたので4とした。
 開館20周年記念事業「新春シネマウィーク」は7日間連続上映を実施でき、多くの参加者を得、プレゼントなどにも創意工夫ができたので5としたが、単年度事業なので、今後の方向性は廃止とした。
 入間映画愛好会共催事業は目標を達成したので5としたが、団体の意向で今年度で終了とのことなので方向性は廃止とした。

○課題

分館は正規職員が少ないので、司書講習参加による職員の長期不在が業務に影響を与える。

図書館は本を借りる場所だけではなく新たなイメージを加えていく必要がある。

ボランティアの意義を職員間で共通理解できていないため充実したボランティア育成研修が行われていない。

ボランティアと職員との間で、事業に対する役割、意義等の共通理解ができていない。

ボランティア研修会の参加者確保のため、実施時期又は実施方法の改善が必要である。

ボランティアの一部高齢化と技術不足があるため育成、支援が必要である。

夜間開館のための広報宣伝が多角的に行われていないため、夜間開館を知らない市民が見受けられる。

夜間開館の業務人数や時間等の再考が必要である。

特例勤務時間での夜間開館対応のため、平日午前時間帯に必要な職員数の確保が難しくなっている。

(学校連携事業等の実施の際、担当職員数に不足が生じる。)

○次年度への改善点

分館職員の司書資格取得のため、図書館全館での協力体制を確立する。

貸出や事業に関するアピールを強力に行い、また、情報発信の拠点となるべく事業を実施する。

ボランティア研修会の内容や講師を再検討し、図書館事業への参加協力を促し、事業の活性化につなげていく。

市民向け事業、特に大人向け事業の拡大を図る。(実施回数の増加等)

日曜日のおはなし会等、新たな事業へのボランティアの協力を要請する。

夜間開館の実施内容について、広報いるま、図書館だより、HP、掲示物等でPRし、その他のメディアへの働きかけも積極的に行う。閲覧席の充実を図るため、効率的な運営方法を検討する。

市民が利用したい、役に立つと思える施設にしていくように、カウンター業務やレファレンス業務でのきめ細やかな対応ができるようにマニュアルを整備する。

★外部評価

○評価の理由

魅力ある図書館づくりにおける、職員体制の充実、高齢者や障害者に対する大活字本の購入数、或いは各種利用促進事業は概ね目標に達しているため内部評価どおり高い評価で良いと思われる。

ボランティアの事業協力については、現状の協力体制を維持するだけでなく、新たな事業協力を創出できると思われるので評価を下げた。

司書有資格職員は、徐々にではあるが、市民要望に応えられる体制になってきているので高い評価で良いと思われる。

閲覧席利用席数は60席のうちの20席という低い目標設定での利用席数達成なので評価を下げた。

○課題

ボランティア協力に関する課題はたくさんある。

ボランティア団体への新規加入者の定着が少ない状況がある。今後はボランティア活動に繋がる養成ボランティアの育成に努めるべきである。

学校図書館ボランティアへの働きかけが少ないと思われる。学校図書館ボランティアには若い人が多いので活動の場が学校に限られることのないように、でボランティア講座を実施し、その他の場所で活動しているボランティアとの接点となり、それぞれの交流の場をつくり、ボランティア活動の動機づけをすることが必要である。

男性ボランティアが少ないので、養成について検討すべきである。

他の図書館が行うボランティア活動や団体について広く情報収集を行い、入間市におけるボランティア活動の基礎作りをして、中長期的なボランティア活動計画づくりが必要である。

重点施策別評価表

1-2 図書館資料の充実

予算の適正な執行を行い、資料の刷新を図る

項目	単位	25年度目標	25年度実績	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
図書館資料の充実								
市民一人当たり資料点数	点	3.7	3.8	100	やや悪い	拡大・充実	4	
貸出点数	点	1,000,000	932,402	93	良い	拡大・充実	4	
子供向け資料	点	2,600	3,488	134	良い	拡大・充実	5	
関心が高い分野の資料	点	7,400	7,582	102	良い	拡大・充実	5	
参考図書資料	点	35	135	243	良い	拡大・充実	5	
NPO雑誌寄贈サポート	種	35	35	100	非常に良い	継続・維持	5	

★自己評価

○評価の理由

市民一人当たりの点数は年度目標は達成しているが、除籍数等の関係もあるためは4とした。

貸出点数は目標を達成できなかったため4とした。

分類別図書購入は概ね目標を達成することができ、蔵書の価値、利用者の要求をバランスよく考慮した蔵書構築、図書館づくりが進められたため5とした。

資料購入は、十分な選書をし、予算を有効活用して購入できているため5とした。

NPO雑誌寄贈サポート事業は、協賛企業から雑誌35種類の寄贈を受け、雑誌タイトル数を増やすことができたため5とした。

○課題

一番の課題は予算の確保と資料保存場所である。

現状予算の中で市民ニーズに合った蔵書構成を目指す必要がある。

図書館全館で保管場所が限界に達しているため、適切に除籍することと分室整備を促進する必要がある。

市民の関心の高い本については、偏りがある分野もあるので、市民ニーズを見極めてより長く活用される資料を収集する必要がある。

図書館未利用者の利用促進が必要である。

参考図書資料については、単価が高価で、冊数の大幅な増加は望めないため、この種の資料のために特化された予算確保が必要である。

予約多数本等に関する順番待ち等に対して、市民の理解を得られるような説明責任を果たす必要がある。

貸出点数の増加のため、資料の新旧入れ替えに力を入れるか、資料点数を増やすため配架スペースを拡張するかのどちらかを優先するのか検討する必要がある。

○次年度への改善点

子供向け資料は地域や時代に見合う選定をする。

市民が関心の高い資料は、少子高齢社会における生活課題解決や生涯学習支援のための資料収集を行う。

参考図書は最新データの掲載されている資料を整備する。

参考資料は、優先順位づけを選書会議で検討し、早期に購入を決定する。

実施計画や当初予算ヒアリング等において、予算の必要性に関する資料を作成し、十分な説明を行う。

新規分室の設置等、保管場所としての機能も兼ね備えた図書提供サービスを早期に実現できるよう関係機関との調整を進める。

配本所や移動図書館を有効活用して効率よく所蔵する。

★外部評価

○評価の理由

図書館資料の充実という点では、決して多くない図書館予算を有効活用し、市民ニーズに応えた図書選定と購入を進められたので高く評価できる。

雑誌についても寄贈事業によりその数を増やしている点は高く評価できるが、雑誌に関する予算配分からか、本来図書館には所蔵していることが至極当然と考えられる雑誌の所蔵が十分ではない点もあるので、今後の雑誌所蔵の際には考慮すべきである。

○課題

図書館資料の充実には予算と資料選定能力が不可欠である。

予算に関しては、他市の状況と比べてもかなり少ない状況が続いているので、市民1人当たり資料点数他の目標達成にはほど遠いと思われる。

今後は、計画的な資料購入予算の確保が必要である。

重点施策別評価表

1-3 学校や関係各所・課との連携 図書館の利用促進と市民の読書活動推進のために学校や関係各所と連携を図る

項目	単位	25年度目標	25年度実績	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
学校、関係各所・課との連携								
図書館見学	校、人	16校、1,370人	16校、1,370人	100	良い	継続・維持	5	
利用教室	校、人	16校、1,335人	16校、1,335人	100	良い	継続・維持	5	
移動図書館学校巡回	学校数	8	8	100	やや悪い	継続・維持	4	
プチー日図書館員	回、人	6回、30人	8回、101人	337	良い	拡大・充実	5	
学校図書館ボランティア研修会	回、人	2回、54人	2回、58人	107	良い	拡大・充実	4	
配本サービス	箇所数	20	21	105	非常に良い	拡大・充実	5	
庁内イベント協力	箇所数	4	5	125	良い	継続・維持	4	
ブックスタート	回	12	16	133	やや悪い	見直し	3	
おとなのための朗読会	回	3	3	100	良い	継続・維持	5	
古典朗読会	回	10	11	110	良い	継続・維持	4	
工作教室	回、人	1回、50人	1回、49人	98	良い	継続・維持	4	

★自己評価

○評価の理由

図書館見学と利用教室は、市内全小学校で実施できたので5とした。
 移動図書館学校巡回は耐震化工事の予想以上の延長により十分な成果がだせなかった学校もあるので4とした。
 プチー日図書館員は事業の効率性の観点から5とした。
 学校、市役所との連携は、年々強化されており、配本サービスやプチー日図書館員等の事業で十分高い評価ができる。
 イベント協力については、参加箇所数は目標に達しているが、参加者数が少なかったので4と評価した。
 ブックスタート事業は庁内連携の未整備により3とした。
 その他の団体との共催事業は団体中心の事業企画であるため継続性に不安があるため4とした。
 おとなのための朗読会は参加者数や事業内容から5とした。

○課題

図書館と学校とがシステム連携が未整備のため、システムネットワーク構築が必要である。
 学校との連携強化のために児童書の充実が不可欠である。
 その他の関連施設との連携事業(自然展他)については、地域住民が利用しやすい事業運営の体制づくりが必要である。
 プチー日図書館員の分館での実施要望が実現できていない。
 学校図書館関係者と職員が連携のための共通理解が十分ではない。
 学校へのサービスについて受け入れ側の学校の「読書」に対する考え方によりサービスに大きな差が生じている。
 配本サービスの人手や配送方法などの検討も必要であり、制度を確立しなければならない。
 配本サービスに関する分館資料の活用について検討の余地がある。
 共催事業が単なる場所貸しで、企画内容等について団体との協議が十分ではない。
 ブックスタート事業など、他部署と連携し行う必要性の意義が理解されていない。

○次年度への改善点

学校関係者やボランティアとの連携を強化するため、連携促進会議(仮称)を定期的を開催する。

公立学校との連携に加えて、私立学校との連携を促進する。

その他の関連施設との連携では、事業終了後に十分な意見交換の場を設ける。

ブックスタート事業の意義について、市レベルでの検討会議を開催し、予算の裏付けのため実施計画に計上する。

図書館が行っている読書サービスの活用により、図書担当教諭の理解を得ることにより、高いレベルで平準化したサービス提供に努める。

学校との連携強化のため、学習支援資料の貸出しを積極的に行う。

読書推進の目的をはっきりさせるため、また子供たちの充実感を数字に表せるようにする。

配本サービスの依頼から配本・回収までの流れを検討し直し、配本先の希望に応えられる体制作りを進める。

★外部評価

○評価の理由

学校との連携による事業は毎年一定の成果をあげているので高く評価できる。特に、配本サービスの協力体制は児童、生徒への読書意欲をたかめることができ高く評価できる。

ブックスタート事業は大変重要であり、現在のかたちでも継続していくことが大切である。継続して実施していくことで連携先に事業の重要性が伝わることにもなると思われる。現状では評価としては低くてもやむを得ない。

○課題

学校連携は図書館の利用促進の観点からも大変大切なことで、また有効な手立てだと思われるので、今後なお一層連携を強化する必要がある。

図書館利用教室の際、生徒に図書館の有用なサービスとしてのレファレンスサービスがあることとそれによって問題解決の手助けにもなることをもっと紹介すべきである。

重点施策別評価表

1-4 情報提供サービスの充実

各種情報媒体を利用し、図書館情報の提供に努める

項目	単位	25年度目標	25年度実績	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
情報提供サービスの充実								
情報ボックス利用件数	人	7,700	7,683	100	やや悪い	拡大・充実	4	3
インターネット端末利用数	回	8,800	9,042	103	良い	拡大・充実	4	
広報いるま特集掲載	回	1	1	100	良い	継続・維持	5	
FMチャッピー出演数	回	50	51	102	良い	継続・維持	5	
入間CATV出演数	回	2	1	50	良い	継続・維持	5	
ホームページアクセス数	回	250,000	261,579	102	良い	拡大・充実	5	
図書館だより発行	回	4	4	100	良い	継続・維持	5	

★自己評価

○評価の理由

情報ボックスは十分な活用がされていないので4とした。
 インターネット端末の有料データベースは導入できていないので、4とした。
 各種メディアを活用した広報活動は目標通り実施でき、充実した内容の活動ができたので5とした。
 図書館HPは見やすく、最新情報の提供ができた。アクセス数も目標を達成できたので5とした。
 地域情報の拠点施設としての役割は目標達成途中と判断せざるを得ない。

○課題

デジタルデバイドの観点から情報ボックスの必要性は認知されるが、情報弱者が十分に活用できていない。
 情報ボックスが、耳の聞こえづらい高齢者等への配慮がなされていない。
 情報ボックスの利用方法の説明が不十分である。
 有料データベースの導入は予算の有効活用にもつながるが、利用者の増加によりプリントアウトの必要性が問題になると想定される。その場合、著作権問題等の課題を克服するための運用方法の構築が必要である。
 FMチャッピーの出演内容がマンネリ化しないように趣向を凝らす必要がある。
 図書館から提供した情報がどのような形態で利用されているか、特に、情報弱者に対して検証する必要がある。
 HP活用のための情報更新が全て即時には行われていない。職員によるHPの管理も定期的に行われていない。
 HP掲載内容の検討が必要である。(写真掲載、本の紹介他)

○次年度への改善点

利用しやすい情報ボックスにするため、内容等の見直しを保守業者とともに検討協議する。
 情報ボックスを高齢者でもわかりやすいように変更する。
 分館でのインターネット接続端末の利用促進を図るため、PRに努める。
 インターネット接続端末利用者間のトラブルにより図書館利用を控えたり、学習意欲が削がれないよう運営上の配慮をする。
 有料データベース導入の働きかけを財政担当に行うとともに、導入後の運用について研究、検討する。
 FMチャッピーの内容が事業等に偏り、本の紹介や豆知識なども含めてバランスよく情報提供する必要がある。
 HP管理担当者を明確にし、少なくとも1か月に1回はHPの点検を行い、全ての情報更新が即時に行われるように情報のわかりやすさ、見易さなどを重視して広報宣伝に努める。

★外部評価

○評価の理由

図書館情報ボックスという名称も含め、市民への認知度が低いため、情報提供サービスという点では低い評価とした。

ホームページ、広報、図書館だよりなどの情報提供サービスは概ね目標通り進められたので妥当な評価と判断する。

○課題

図書館情報ボックスというサービスがどのような内容で、どんなサービス提供をしているのか市民に充分認知してもらう必要がある。例えば、名称を「自動音声応答システム」に変更する。

重点施策別評価表

2-1 図書館網の整備

移動図書館運営の見直しと代替案である分室網の整備を促進する

項目	単位	25年度目標	25年度実績	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
図書館網の整備								
システムネットワークダウン数	回	0	0	100	非常に良い	継続・維持	5	
ダイヤ4市相互利用者数5%増	人	43839	39,446	90	良い	拡大・充実	4	
図書館部会会議開催数	回	4	3	75	やや悪い	継続・維持	4	
東金子公民館協議		実施	未実施	0	やや悪い	見直し	1	
黒須公民館協議		実施	未実施	0	やや悪い	見直し	1	
学校図書館とのシステム連携検討会議		実施	未実施	0	悪い	見直し	1	

★自己評価

○評価の理由

図書館情報システムは、システムダウンすることなく円滑に運営できたので5とした。
 ダイヤ4市の相互利用者数は目標を下回ったので4とした。
 黒須、東金子公民館との協議が実施できず、ほとんど進展がなかったため1とした。
 学校連携システムの検討については、実施計画上も見送りとなったため、事実上白紙状態で評価できる内容ではない。

○課題

図書館システムのアップデートに伴う不具合の解決を図る。
 システム更新や学校連携には図書館側にシステム担当職員の配置が必要である。
 新しい情報技術への対応のため、調査研究を行って、システムの機能強化を図らなければならない。
 情報ツールの活用方法等を情報提供する必要がある。
 飯能市立図書館開館による影響での分館利用者の減少に対する利用促進方法を検討する必要がある。
 移動図書館サービスの代替サービスとして位置付ける東金子、黒須の分室計画は先の見えない状況である。
 公民館の現状が図書館基本計画策定時と変化しているため、分室化の協議が難しくなっている。
 システム更新の大きな柱と位置付けてある学校図書館との連携が全く進んでいない。
 学校連携システム検討会議の立上げについては、学校側の人的準備（サービスを行う人の確保）とサービス開始に伴う準備（データ整備他）に課題がある。

○次年度への改善点

システムの持つ機能を最大限に生かして、サービスの効率化、迅速化を図る。
 システム更新に向け、自動貸し出し機や返却機を導入することで、分室への人件費に振替えることを検討する。
 公民館との協議では、課題や問題点を整理し、将来的な視野で、現実的かつ無理のない分室運営を提案する。図書館側では、館運営会議で協議する。
 学校連携に向け、学校担当者と図書館システム担当者レベルの協議の場を設定し、具体的な連携の仕方等の意見交換の場とする。
 学校連携システムについて、実施計画に計上するとともに、職員間でその意義等の理解を深められるようにする。
 相互貸借に関して、図書館間の差がでないように十分な検討協議の機会を設ける。（相互貸借担当者会議他）

★外部評価

○評価の理由

図書館情報ネットワークシステムの運用に関する評価は安定的なサービス提供からも妥当だと思われる。
分室整備については現実に進展がみられないので低い評価もやむを得ない。

○課題

分室整備が進まない中では学校図書館との連携協力をすすめ、移動図書館サービスの充実を図ることが必要である。

また、特に図書館のない地域の市民にはどのようにして公平平等なサービス提供をしていくのが課題で、そのためにも移動図書館サービスを充実させる今後の運営が望まれる。

重点施策別評価表
設備や内装等の計画的な改修等を行い、快適な読書環境を確保する

2-2 図書館施設の整備

項 目	単位	25年度目標	25年度実績	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
図書館施設の整備								
西武空調改修工事		実施	完了	100	良い	継続・維持	5	
図書館書庫等整備事業		完了	完了	100	良い	継続・維持	4	
藤沢閲覧用椅子購入	脚	10	13	130	良い	継続・維持	5	
西武分館電灯設備改修工事		実施	完了	100	やや悪い	継続・維持	4	
西武分館ブラインド交換修繕		交換実施	完了	100	良い	廃止	5	
西武分館トイレ洋式化工事		洋式化	完了	100	やや悪い	継続・維持	4	
落下防止器具購入	個	350	350	100	良い	継続・維持	5	

★自己評価

○評価の理由

西武分館空調改修工事は予定通り完了し冷暖房共に稼働できたので5とした。
 図書館書庫等整備事業は、目標とする整備が完了したので概ね良かったが、日々の整備が必要な部分も残されているので4とした。
 西武分館の施設管理面については補正予算などでも各種工事、修繕が実施され、快適な読書環境の確保に向けて、必要最小限の努力は認められることから4とした。
 西武分館ブラインド交換修繕は、予算確保により全て交換できたので5とした。
 落下防止器具の設置により、施設の安全面が向上したので5とした。

○課題

本館、金子分館、藤沢分館は複合施設内にあるため、それぞれの管理部門との連携協力が必要である。
 図書館本館をはじめ、分館3館ともに施設の老朽化が顕著であるため、施設の安全確保と延命化対策が必要である。
 市民の財産である図書資料を保管する場所としての整備が必要である。
 空調機器は応急修繕で抜本的な全面更新がされていない。
 書庫の書架以外の場所についての継続的な整理整頓も必要である。
 トイレ洋式化は全部改修できていない。
 落下防止器具は設置例が少なく、効果に関する適正な評価が出されていない。
 利用者への配慮としてトイレの悪臭や安全管理のための改修が必要な個所がまだ残されている。
 今後増加していく資料の保存についての全館での対応協議が必要である。
 視聴覚資料保管スペースがひっ迫しており、次年度以降購入により保管場所が不足する。

○次年度への改善点

大規模改修の難しい時期であるため、緊急修繕での対応を図って、施設の安全確保と延命化を目指す。

空調機器改修、トイレの様式化等については、実施計画に計上し、早期の全面改修実現の努力をする。

落下防止器具の有効性を確認し、検証等を行って、今後の方向性を見定める。

施設の改修、修繕には優先順位づけを行った後、計画的に進める。

今年度ビデオテープを整理したように、状態の悪い資料の整理を行い、必要に応じて配架替えや除籍等を行い新たな配架スペースを検討する。

★外部評価

○評価の理由

計画された施設、設備の整備は完了できたので概ね高い評価でよいと思われる。

その他として、本館の視聴覚資料について、利用者の立場に立って、整理ができており、利用者の利便性の向上が図られている点も評価できる。

○課題

図書館は利用者の安全を第一に運営すべき施設であるので、施設、設備のさらなる安全性の確保が課題となる。

また、現状の施設、設備の安全性、利便性をどのように維持していくかも課題である。

施設の老朽化が進んでいるなかで、延命措置としての定期的なメンテナンス、計画的な修繕等の対応ができていない。